

- 全体参加者＝約70名（スタッフ含む）
 - プログラム
 - 午前……藤山講演、4地区（弥栄、左鐙、道川、別府）の事例発表
 - ・弥栄：集落とつながる「地元学」「移住の手引き」「ええとこ歩き」の取り組み
 - ・左鐙：小さな地域の定住への挑戦
 - ・道川：小学生倍増の秘密
 - ・別府：新たな仕組みづくりの挑戦！～定住促進～
 - 午後……しま暮ら・定住財団支援制度等紹介、意見交換会
 - 意見交換会（ワークショップ）は、約70名を8つのテーブルにシャッフルして実施
 - 8つのカテゴリ（「その他」を含めると9つのカテゴリ）に整理し、次の3つの段階を踏んで意見交換
 1. 「いいね」（ベストプラクティス）と
 2. 「困ったね」（抱えている課題）
 3. 「やろうね」（アクション）
 - 「やろうね」は、地区単独で取り組むことと他地域と連携して取り組むことに分類
- ※8つのカテゴリ 情報発信／案内／コミュニティ受入／住宅／職場／子育て／地元への愛着・誇り／暮らし



上：弥栄発表 下：昼食交流会



左：午前中の講演の様子 中・右：午後の意見交換会（WS）の様子

いいね	困ったね	やろうね
<ul style="list-style-type: none"> ○道川の情報発信 ○情報発信（地元学・左鏡応援団） ○地域ぐるみでの交流推進 ○コミュニティの受入 ○別府の定住後サポート ○ええとこ歩き（弥栄に入る前の受入） ○子育て環境（とくに道川のPTA全戸加入） ○道川・左鏡の子ども中心の環境 ○愛着・誇りづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報発信 ○Uターン支援の不足 ○定住後のフォローの不足 ○受入体制 ○コミュニティ受入 ○地域内の意識の温度差 ○地域の意識 ○子育て環境 ○できる人への“役”の集中 ○職（ミスマッチ） ○住宅（すぐ住める空き家の不足） 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域内でのコミュニケーション促進 ○若者とのつながりづくり ○リーダー層の意識改革 ○他地域と情報共有 ○地域情報：HPで発信、情報交換するネットワーク ○地区単位での情報が必要 ○方向性（ビジョン）を示すことが必要 ○コミュニティの受入→地域が動くために“煽る” 守るべきものは守るが他方で殻を破る勇気、 そのための若者・よそ者、役割分担が必要 ○地域・移住者の交流機会（5年はかかる！） ○受入：地域と外部人材のミスマッチ解消 ○受入体験（町内外で） ○コーディネートできる人材が必要 ○定住後フォロー：Uターン者との交流会、スクールバスの地区運営 ○子育て環境：学校保育園等残っているところは残す、豊かな自然を生かして“自然保育・自然学校いわみ”を提案 ○子育て環境：自然を活かした教育から定住化 ○職：丁寧な斡旋 ○職：1時間以内は通勤圏内と認識して紹介 ○住宅：空き家バンクのリストアップ→地域の人に空き家管理をお願い ○住宅：定住のための空き家情報集約・発信

注：赤字は他地域と連携して取り組むもの（速報版）